

令和2年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画				自己評価			学校関係者評価		次年度への改善策		
令和2年度教育目標	分類	令和2年度の重点目標	目標達成のための具体策	評価指標	項目	評価	成果と課題	評価		意見	
人とつながって生きる力を向上させる。(多文化協働力)	1	自他の人権を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨を推奨する。	生徒に柔らかく丁寧に向き合い、生徒が安心して学べる集団作りを行う。	あいさつの励行。人権・同和教育の推進(人権同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。研修等を通じ教職員の人権意識やいじめに対する認識を高める。)	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。いじめアンケート等の分析。平素の生徒の観察。	1,2	A	生徒に対しては体系的な人権・同和教育を実施する一方、教職員も校外での研修に参加するなど、学校全体で人権尊重を基盤とする教育活動を推進した。いじめやSNSでのトラブル等の生徒指導上の問題は、生徒部を中心に学年会と連携して取り組み、いじめ対策委員会等を実施して、組織で解決に向けて対応した。今後も情報リテラシーに関する継続的な指導が必要である。	A	学校の人権意識の育成といじめ防止に取り組んでいる項目において、教員と保護者の認識に乖離がみられる。やっていることは前提として、保護者への情報発信の工夫を今後も続けてほしい。	生徒指導上の問題については、今後も迅速に対応できるように校内組織や外部機関との連携をさらに密にする。すべての教育活動の基盤に生徒指導を据え、人権感覚を高めるための研修や授業改善を進める。
	2		各学年の生徒支援担当とも機能的に連携しながら、気づきシートや個別の指導計画等も活用し、支援や相談を効果的に行う。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。気づきシートや支援計画・指導計画の作成・活用状況。	4	A	計画的に生徒面談や保護者面談を実施し、生徒支援委員会や職員会議等で支援の必要な生徒の校内での情報共有を図ってきた。また、保健相談部と学年会が連携して、本人の希望や働きかけによってスクールカウンセラーを利活用して面談を実施できた。特別支援教育コーディネーターは、個別の支援が必要な生徒の相談窓口となり、保護者と協力して生徒への指導を行うことができた。	生徒との面談や学校カウンセラーとの面談の機会確保は図られており、学校全体で生徒理解を進めている。今後も生徒の多様性を認め、保護者と連携してよりよい教育活動の構築に努めてほしい。		生徒支援委員会の機能を活かしつつ、職員会議等で支援を要する生徒についての情報を全教職員で共有し支援する。特別支援教育に係る研修等を実施し、教員の資質・能力の向上を図る。	
	3		生徒に様々な活動に参加させ、生徒のコミュニケーション能力を高める。	生徒会活動や委員会活動の機会を増やし、併せて内容の充実も図る。部活動紹介で入部を呼びかけ、活動の状況や成果を生徒に目に見える形で発信する。全国レベルの実績を目指す。文化祭・文化部合同発表を充実させる。	部活動加入状況。HPや学校だよりでの情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	3	A	生徒会が中心となって企画運営した学園祭(東雲祭)は、感染症対策を工夫して実施し、生徒から高評価を得た。部活動に全校生徒の9割近くが加入し、上位大会に進出する部が増えた。今後は、生徒会の活動や学校行事において、さらに生徒が自分たちで企画して実践していく自主的な活動を増やす必要がある。		生徒会の活動をはじめとして、東高の教育活動を、地域や校外にさらに効果的かつ時宜をとらえて広報していくことが必要ではないか。	生徒会を中心に、学園祭の企画や学校生活のルールの見直し等、生徒が提案して実践する機会を意識的に増やす。部活動については、生徒数の減少などの実態をふまえながら、活性化を進める。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる。(主体的学習者としての力、探究的学習力)	4	自ら学びを取りに行く生徒を育てる。	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善に全教職員で取り組み、生徒の家庭学習時間を確保させる。	主体的・対話的で深い学びとなる授業を学校全体で展開していく。また、ETC・学力テスト・模擬試験の効果的な実施や課題の質や量を検討する。課題解決型学習や土曜講座を充実させる。	教育課程実践モデル事業に関わるアンケート等。授業評価アンケートの結果。学習時間調査の結果。学習成績、実力テスト成績。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	5,6	B	平素の授業に関する授業評価アンケートでは概ね良好な結果が得られたが、ETCや学力テスト・模試等の結果から、基礎学力の定着に結び付いていない生徒がいることが把握できる。生徒の学力を定着させ伸ばしていくためには、生徒がさらに主体的に学習に取り組めるように、主体的な学びに結び付ける動機付け、働きかけを継続的にを行い、今後も指導を工夫していく必要がある。	B	目標達成の具体策にやや違和感がある。授業の内容を評価すべきであり、そのための評価指標の再構築が必要ではないか。	より効果的な学習指導ができるように教務部、進路指導部と学年会の連携をこれまで以上に進める。主体的に学ぶ必要性を生徒が実感し、行動に移すことができるように教科会を中心に取り組む。
	5		公開授業を全員実施とする等校内研修を充実させるとともに、校外の研修や研究会に積極的に参加する。また、学習センター(図書館)の環境整備を進め、図書委員会の活動を活性化するとともに、LHRの時間における「図書館活動」を充実させる。	公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。学習センター(図書館)に関しては生徒アンケート及び貸出率	8,9	B	校内での初任者研修や経験者研修に合わせて授業公開を実施し、授業改善に取り組むことができた。今後も教科の垣根を越えて授業改善の研究と実践をさらに進めていく必要がある。また、学習センター(図書館)を授業で活用する教科が増え、書籍の貸出実績のない生徒の割合が2割減少した。今後も学習センターをさらに活用する場面を増やしていくことが必要である。	これまでは予習、授業、復習の学習スタイルがあたりまえだった。学びが多様化していく中で、いつまでも家庭学習に頼る教育のままでよいか。また、生徒が主体的に学ぶプロセスを用意すべきではないか。		今後も公開授業・研究授業等に学校全体で取り組むことで教科横断的な取組を進め、ICTや学習センターを活用しながら、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。	
	6		キャリア教育を充実させ、生徒の進路目標を早期に設定させる。	島根大学との教育プログラムや「東高カフェ」等を活用し、大学生や社会人との交流を推進し、生徒が主体的に自身のライフデザインを考えるような仕掛けを工夫する。	高校魅力化アンケート及び生徒アンケート	7	A	島根大学の教員による授業や学部紹介等、大学と連携する機会を増やすことができた。また「総合的な探究の時間」を中心に、地域で活躍している大人と交流する場面を増やすことができた。また、キャリアパスポートにおけるルーブリック評価を実施し、生徒の意識の向上を把握できた。今後は、学校行事や教科学習における本校ルーブリックの活用場面を増やす必要がある。		中学生が高校を選ぶ時代であり、「探究」という言葉が生徒、保護者に浸透してきている。	進路指導部と魅力化推進部、学年会の協働を今後も進め、島根大学や地域等の外部人材も活用しながら、生徒の主体的なキャリア形成に寄与する授業、行事の展開と工夫を行う。
7	生徒面談、保護者面談を定期的に行い、進路検討会を活用して一人ひとりの学力向上や進路目標実現を支援し、「自立への道程」を考えさせる。	生徒・保護者面談の実施状況。進路検討会等への参加状況。平素の生徒の観察。	10,11	B	各学年とも計画的に生徒面談を行い、進路や学習面でのサポート体制の充実を図った。また計画的に保護者面談を実施し、大学入学共通テストをはじめ進路に関する情報を提供し、生活面も含めた家庭との情報共有を図ることができた。今後は、進路の目標設定に関する生徒の主体性を引き出すとともに、適切な情報発信を推進し、保護者との連携を深める必要がある。	コロナ禍の影響もあり、社会全体でもICTの活用場面が増えている。ICTを活用していくことで、学びをどのように構築し、学習活動をどう評価していくか検討していくべきではないか。	大学入学共通テストの分析を行い、面談や学年PTA等を通じて生徒や保護者との情報共有を図る。学習内容と社会のつながりを意識させる等、1年次からの体系的な進路指導を行い、生徒が進路目標を設定できるように支援する。				
地域社会の今と未来に関わる力を育成する。(社会的自立力、地域共創力)	8	地域社会への貢献意識を向上させ、地域に信頼される学校づくりを行う。	島根大学や市内企業、川津公民館との連携を強化して、地域資源を生かした「総合的な探究(学習)の時間」等の授業を構築する。また、近隣の学校(幼・小・中・特別支援学校等)との連携を強化する。	高校魅力化アンケート。また「総合的な探究(学習)の時間」の各プログラムの事後アンケートの結果。	13	A	松江東高等学校コンソーシアムが発足したことを活かし、島根大学や松江市役所、市内企業、川津公民館等と連携して、「総合的な探究の時間」の授業を中心に課題探究型の学習を実施している。また、次年度以降の実践について、コンソーシアムの「戦略ワーキング」や「教育プログラム開発ワーキング」と協働しながら取組の強化を進めている。	A	島根大学とは教育学部との連携が主だが、特に今年度の理系学部との連携は評価できる。今後も幅広く連携を進め、例えば学校設定科目での協働体制をさらに推進していくべきではないか。	今後も魅力化推進部と学年会の連携を図り、コンソーシアムの「戦略ワーキング」や「プログラム開発ワーキング」と協働しながら、「総合的な探究の時間」や学校設定科目の計画と実践を進める。	
	9		保護者や地域から信頼されるようコロナ禍での生活様式を適切に指導する。また、地域資源の有効利用を通じて、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	高校魅力化アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。地域の方々の声。	14,15	A	生徒会の保健委員が、食事の際のマナーの徹底について放送で呼びかけ、感染防止対策の点検・整備を行うなど、学校をあげて校内での感染防止対策の周知を徹底した。また、教職員もふくめたゴミの持ち帰りの推奨により、校内でのゴミの減量化が図られた。今年度は制約が多かったが、希望者やJRC部が、川津児童クラブや川津幼稚園をボランティアで訪問し、交流を深めた。		「総合的な探究の時間」における島根大学や松江市役所、市内企業、川津公民館等との連携は、大いに評価できる。今後も継続的かつ持続的な教育活動の進化(深化)を期待する。	コロナ禍での感染症予防対策やゴミの持ち帰りを今後も呼びかけ、生徒の保健委員会とともに校内環境の整備を実施する。ボランティア活動を含め、校外での活動に積極的に参加するように生徒に働きかける。	
	10		ホームページや学校だより「EAST NEWS」、進路ジャーナル、保健だより、学習センターだより等を通して、学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。また、本校の魅力を伝えるPR動画や授業の様子等様々な活動を伝える動画を作成し、情報発信を行う。	保護者アンケート。ホームページの更新状況や閲覧状況及び動画の視聴回数。	12	A	ホームページの更新頻度を2割以上増やし、「EASTNEWS」等の発行を計画的に行うことで、本校の現状を伝える情報発信を継続している。今年度は本校PR動画を作成し、また本校の授業の様子を伝える動画をHPで公開でき、オープンスクールへの参加者も増加した。今後は本校の魅力を伝える情報発信に注力していく必要がある。		新聞に東高の地域連携の記事が紹介され、東高の様々な取組の成果を目にする機会が増えてきていると感じている。今後も魅力化・特色化を進めることで学校の魅力度を上げてほしい。	学校の取組をすみやかに広報できるようにHPの内容を充実させ更新頻度を高める。また、保護者や中学生の関心が高い課題探究学習や部活動の情報も充実させ、多くの人に松江東高等学校の魅力度をPRする。	